

石作品の制作による技術の普及と地域活性化の活動

学生団体名 石川で学び隊 造形チーム（金沢学院大学）

参加学生 國木郁子・安村英世・宮広樹・作田賢三・山本諒介・辻摩穂・山本明日香・菘輪香里

1. 地域活動の概要

小松市の石文化は国内外に発信するために認定される日本遺産として平成28年4月に登録されました。古くから小松市には数多く石切り場があり、そこで切り出された石材は市内の建造物に使われてきたほか、国会議事堂など全国の有名建造物に使用されており石川県の誇るべき文化の一端を担っています。小松市の石文化を知り今後の発展を考える第一歩として、小松市滝ヶ原にて石工の技術を学び、それを生かしての作品制作を行いました。

2. 地域活動の具体的な内容

① 現地視察 8月22日

実際に使用する石がどんな場所にあるのか、またどのように切り出し作業や造形加工作業が行われているのか、石切り場や工房を訪れました。小松市役所と滝ヶ原の方々に案内していただき、見学しました。



この日の様子は北國新聞に掲載されました
(写真右)



② 素材・道具のリサーチ・検討 9～10月中旬

現地で実際に触れた素材について、その特性を踏まえてどんなものが制作可能であるのかを話し合いました。また、教えていただいた道具の知識をもとに、専門職に就いていない私たちでも購入でき、扱える範囲の現実的な道具な道具は何かをリサーチ・検討しました。その過程で様々な壁に直面したため、石工職人の中谷さんから高島砥石店を紹介していただき、そこで改めて道具と制作にあたってのアドバイスをいただきました。

③ 石工職人からのレクチャー 10月13日

現役の石工職人である中谷篁さんから石の彫り方を学びました。私たちが制作を行うにあたって必要な道具と使い方、作業をする上での注意点などを詳しく教えていただきました。また、滝ヶ原で採掘される石の特性について学ぶことができました。



④ 道具の購入、造形練習 11月～12月

道具の購入に際しては、作業の慣れ具合に従って「どこまでできるのか」を把握しながら少しずつ揃えていくこととし、必要最低限の道具であるたがねなどから購入しました。現地から提供を受けたサンプルの石材を使用して大学の作業場にて練習を重ねました。同時に自分たちの技量とスピードに見合う作品規模にするため計画の調整を行いました。



⑤ 素材の入手 1月初旬

日頃のミーティングを通して決定した案に基づき、素材となる滝ヶ原の石を購入しました。石材は滝ヶ原の石切り場から大学に届けられ、小松市役所経済観光文化部観光交流課の方の協力を得ながら運び込むことができました。



⑥ 作品制作 1月～

自分たちで決めたテーマに沿った作品の制作を行いました。



作品モデル (写真上)

作品制作の様子 (写真右)



⑦ 展示会 2月27日～3月1日

金沢学生のまち市民交流館にて制作した作品を展示。冬季の滝ヶ原は雪深く、展示会が難しいため、雪解け後に作品を滝ヶ原の「里山自然学校こまつ滝ヶ原」へ移し、屋外にて常設展示を予定しています。(報告書作成時では予定)



里山自然学校こまつ滝ヶ原 グラウンド (写真上)

3. 地域活動の成果

小松市の石文化について、滝ヶ原の石工を中心に多くを学ぶことができました。その成り立ちや石材の活用事例、制作方法など事業を通じて初めて知ること、この文化を広めるにはどうしていけば良いのかを検討するための知識基盤を得られました。そして、今後の滝ヶ原での活動に当たって知るべき地域の実情を、現地の石文化に関わる方々と交流することで知ることができたのは大きな成果と考えています。また、今回は作品制作を中心に展開しながら、なによりもその造形制作の手間と難しさを参加学生が身をもって体験し、「初心者が石工をするにはどれだけの時間と労力が必要なのか」という基準を把握すると共に、小松市の石工の価値を認識することができました。

4. 来年度の地域活動計画

今回は学んだことを生かしての作品制作を中心として取り組んできました。その中で痛感したのは小松市の石工文化の奥深さです。それはとても一朝一夕で身につけられるものではなく、私たち学生は学ばせてもらい、まず自分たちの手で形にして向き合うことが第一に思えました。今年度培った知識と経験をベースに、来年度は外へ向けた有効な発信について提案を行いたいと考えています。また、素材の重量に伴う運搬の困難さ、滝ヶ原の気候、交通の便など活動をスタートしてからわかった問題点を考慮して、現地でのワークショップを企画するほか、大学内の他団体と連携してICTを活用した遠隔ワークショップの開催などを視野に入れて活動していきたいと考えています。

5. 学生の感想

滝ヶ原の石工の技を体験したからこそ得られたことが多くありました。初めて石を使った作品制作を行い、たがねなど初めて触れる道具があり新しい体験ができた反面、普段とは違った慣れない作業に苦戦するとともに、造形について自分たちに足りない姿勢や技術と向き合う機会を得ることができました。今回、小松市滝ヶ原の石工技法を間近で学び、この石川県の石文化の魅力をより多くの方々にも伝えていきたいという思いを強くしました。このプロジェクト以降、これまで見ていたにも関わらず気づいていなかった「日常生活に息づく小松市の石」を意識できるようになりました。(住宅の塀 etc.)

6. 地域活動に対する地域からの評価

まずは、小松の石の文化・石工の技術に興味をもっていただき、ありがとうございます。最初にお会いしたときの感想は「大人しい学生たち」で、不安も無かったわけではありませんが、石工職人から石彫りを教わっている真剣なまなざしやその後のやり取りを見て、安心しました。今回の事業の成果が、石工技術の継承に、そして、皆さまの将来に繋がることを期待します。また、我々も引き続き、小松の石の文化の発展のため、様々な取り組みを進めていきたいと思えます。